

● 三重県関係で国の登録有形文化財（建造物）の新登録の答申が行われたものの概要

【名称】見庵（旧小泉家住宅主屋）（けんあん（きゅうこいずみけじゅうたくしゅおく））

1棟

【所在地】松阪市魚町

【年代】江戸末期

【建築面積】130㎡

見庵は、松坂城下町の町人地に所在する町家で、周辺には重要文化財の旧長谷川家住宅や国特別史跡本居宣長宅跡があります。江戸時代には、代々医師であった小泉家の居宅であり、紀州藩御目見医師であった4代目の小泉見庵（1736～1783）は、宣長とも親交があったようです。

平成8年に所有者が変わり、まどみのやかた「見庵」として宣長に関する展示や集会等の施設として利用されています。

木造平屋建、瓦葺の建物で、玄関を入れて通り土間と2列の居室を配置する間取りとなっており、松阪の町家の伝統的な形式をよく残しています。また周辺の旧長谷川家住宅や本居宣長宅跡とともに歴史的景観を形成する建物です。



【名称】貝増家住宅主屋（かいますけじゅうたくしゅおく）

1棟

【所在地】名張市柳原町

【年代】明治初期／昭和38年増築・平成21年改修

【建築面積】114㎡

貝増家は、名張藤堂家の家臣で、初瀬街道から宇流富志祢神社（うるふしねじんじゃ）への参道沿いにあります。主屋は木造の建物で、正面の格子戸と白漆喰で縁取られた虫籠窓が特徴となっています。玄関を入るとかつて厩であった土間があり、左手に座敷を配置する間取りとなっています。名張市内に残る武家屋敷の一つであり、初瀬街道周辺の良い景観を構成しています。

